

手原駅開業100周年記念展

# 街道から鉄道へ

会期 令和4年 9月17日(土) ~ 11月6日(日)

9時30分~17時 (ご入館は16時30分まで)

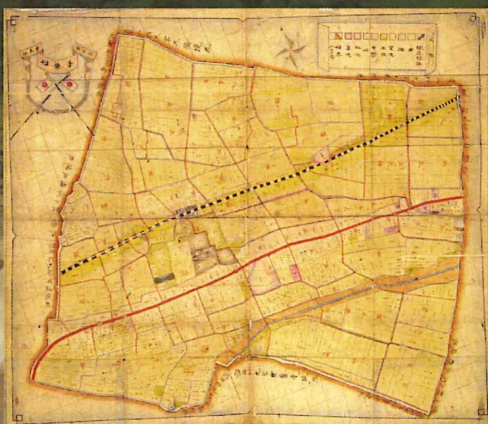
入館料/無料

会期中の休館日 月曜日(9月19日、10月10日をのぞく)・9月20日(火)、10月11日(火)、11月4日(金)

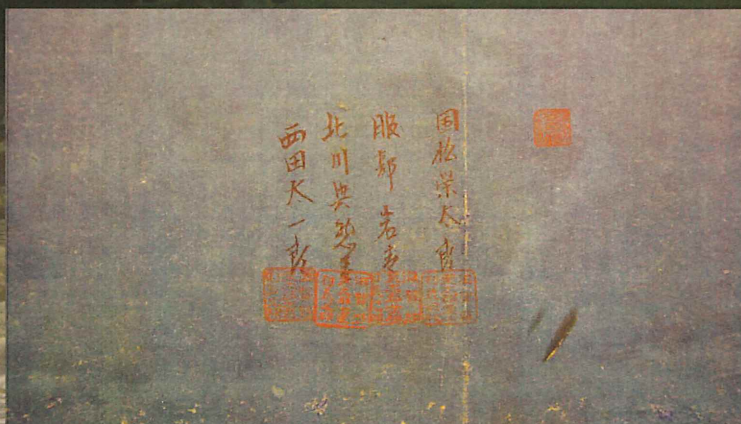
主催：栗東市、栗東市教育委員会

## 関連企画

展示解説会 9月17日(土)、10月15日(土)、11月5日(土) いずれも14時から(1時間程度)



手原村全図(明治20年代)



石部草津間停車場新設々計画図(部分) (『里内文庫資料』のうち)  
(左から) 大宝・治田・金勝・葉山4か村の村長連名部分



## 栗東歴史民俗博物館

滋賀県栗東市小野223-8

☎ 077-554-2733

☎ 077-554-2755



<http://www.city.ritto.lg.jp/hakubutsukan/>



大正11年(1922) 11月5日、開業当日の手原駅

新型コロナウイルス感染症対策の一環として、事業を延期または中止する場合がございます。事業開催に関する状況は、事前に栗東歴史民俗博物館までお問い合わせ下さい。



# 手原駅開業100周年

～“栗東”の歴史はここから始まった！～

通勤・通学の時間帯を中心に多くの人々が利用する、JR 草津線の手原駅。

栗東観光案内所も置かれ、栗東市の玄関口になっている手原駅の開業は、大正 11 年 (1922) 11 月 5 日。令和 4 年 (2022) で **100周年** を迎えます。

手原駅が開業した頃のことを振り返ってみましょう。

「手原に駅を！」と最初に声を上げたのは、葉山村手原の人々。大正 8 年 (1919) に手原駅創設期成会を発足させると、葉山村議会に新たな駅（手原駅）の設置の企画を提出しました。葉山村議会ではこれを可決し、翌大正 9 年 (1920) には、**治田・金勝・葉山・大宝** の 4 つの村の村長の連名により、神戸鉄道局へ新たな駅の設置の請願を行っています。



JR草津線手原駅



里内 勝治郎 (1877～1956)

手原駅創設期成会メンバーの 1 人が、手原に生まれた郷土史家・里内 勝治郎 (1877～1956) で、彼が遺した郷土資料コレクション『里内文庫資料』（滋賀県指定有形文化財）には、手原駅の設置に関わる資料も多く含まれています。

地元の人々の情熱的な活動の甲斐もあって、手原駅は大正 11 年 (1922) 4 月に着工し、同年 11 月 5 日に開業しました。

ここで注目しておきたいのは、手原駅の開業は、のちの昭和 23 年 (1948) に組合立の栗東中学校を開校させ、昭和 29 年 (1954) には合併して**栗東町**となる**治田・金勝・葉山・大宝**の 4 つの村が、協力して成し遂げた一大事業であったということです。

100 年前に成し遂げられた手原駅の開業は、現在まで続く**栗東**というまちのあゆみの第 1 歩だったのです。

## 「手孕伝説」と手原駅

手原の地名は古くは「手孕村(てはらみむら)」と書かれ、女性の腹に手を置いていたら赤ん坊が産まれた、あるいは女性が手を産んだという少し奇妙な伝説(「手孕伝説」)由来とされています。

手原の地名と手孕伝説は、街道が発達した江戸時代には全国に知られるようになり、名所図会などの出版物でも紹介されました。また、人形浄瑠璃の「源平布引滝」の題材としても取り入れられた手孕伝説は、歌舞伎でも上演されることとなり、古典楽劇の世界でも有名な存在となっていきます。平成 16 年 (2004) に実施された

手原駅の改築工事では、駅のデザインが公募され、地元の人の発案により、「源平布引滝」で手孕伝説の舞台となる入母屋造りの民家をイメージした外観が採用されました。また、駅前には手孕伝説をモチーフにしたモニュメントも建てられています。かつて、街道を通じて全国に知られ、古典楽劇の世界で親しまれた手孕伝説は、地域のシンボルとしてよみがえりました。



源平布引滝絵看板  
(館蔵『里内文庫資料』No.357-3)